

# 記者発表（配付）資料

平成24年8月28日

所属部課	館長	副館長	統括学芸員	担当	連絡先
萩博物館	湯本重男	樋口尚樹	清水満幸	道迫真吾	25-6447

件名	没後100年記念特別展「楫取素彦と幕末・明治の群像」 の開催について
----	---------------------------------------

本年は、吉田松陰の義弟で、松陰没後は後継者として松下村塾の指導にあたった楫取素彦が逝去して100年目にあたります。素彦は、幕末の動乱期には、十三代萩藩主毛利敬親の側近に登用され、藩内では木戸孝允や穴戸璣、藩外では坂本龍馬・西郷隆盛らと協力し、倒幕に活躍しました。明治維新後は、群馬県の初代県令として産業や教育の振興に顕著な功績を残し、名県令と称えられました。

本展覧会では、素彦をとりまくさまざまな人物たちとの交流関係を踏まえながら、幕末・明治という激動の時代に彼が果たした役割を検証します。

楫取家・小田村家に伝わった初公開の資料も多数出品します。

素彦は、幕末には小田村伊之助・素太郎などと称し、慶応3年（1867）楫取素彦と改名しました。

1. 会期 : **平成24年9月22日（祝・土）～平成24年10月21日（日）**  
会期中無休

2. 会場 : **萩博物館** 企画展示室（山口県萩市堀内355 0838-25-6447）

3. 開館時間 : **午前9時～午後5時**（入館は午後4時30分まで）

4. 開会式 : **9月21日（金）15時00分から**（30分程度） 終了後に内覧会  
**プレス取材は14時から開始いたします。**

5. 観覧料 : 大人500円、高校・大学生300円、小・中学生100円  
【団体割引】20名以上 20%引 【障がい者割引】20%引

6. 展示資料数 : 115点（目録参照、チラシ参照）

実物資料100点、パネル展示資料15点。

チラシに使用した画像データを提供いたしますので、ご入用の際はお申し出ください。

本展覧会では、**展示図録**（A4判、カラー口絵8頁、1色刷、全88頁）を作成いたします。

開会式当日に配布いたします。

9月22日からミュージアムショップで販売いたします。（**定価：1,000円**）

7. 主要展示資料 :

楫取素彦肖像画(群馬県立歴史博物館蔵) **山口県初公開**

米国で描かれた 51 歳頃の素彦の姿。素彦は群馬県令時代の明治 12 年(1879)に写真を撮影、その一枚を群馬の貿易商新井領一郎が渡米時に携帯してニューヨークで画家に描き写させ、前橋の素彦のもとへ贈った。

吉田松陰自賛肖像画(京都大学附属図書館蔵)

江戸送りに臨んで描かれた 30 歳頃の松陰の姿。安政 6 年(1859)5 月、松陰の不帰を悟った素彦や久坂玄瑞らは、塾生で画家でもあった松浦松洞に松陰の姿を描かせた。絵の上には、素彦の勧めにより、松陰が自ら賛と呼ばれる文章を認めている。

吉田松陰筆 贈村塾来送諸君(楫取能彦氏蔵) **本邦初公開**

素彦に松下村塾の将来を託した松陰の書。松陰が二度目の野山獄入りをした安政 5 年(1859)12 月、松陰は、塾生に対してこの書を贈り、村塾は今まさに勢いを高めている、その盟主は素彦であると宣言した。そのため素彦が大切に保管したものとみられる。

楫取素彦家訓書(小田村四郎氏蔵) **本邦初公開**

幕末動乱の最中に素彦が書いた家訓。素彦は、幕長戦争(四境戦争)の余燼くすぶる慶応 2 年 8 月、中国の高官、張文節公の言葉を引用し、妻寿子ら家族のためにこの書を遺した。今は衣食に事欠かなくても、いつ官を失うかもしれないから、奢侈に流れることなく儉約に努めるようにと訓諭する。

大和錦切火打袋(楫取能彦氏蔵) **本邦初公開**

戊辰戦争時の錦旗(錦の御旗)の切地で作られた火打道具を入れる袋。錦旗は、鳥羽伏見戦争で「朝敵退治の宣下」があり、総督宮(仁和寺宮)に賜ったもので、のちに切地が素彦らに分け与えられたことがわかる。

以上のほかにも、西郷隆盛、木戸孝允、高杉晋作、久坂玄瑞など幕末の志士たちに関する初公開の資料を多数出品します。

8. ギャラリートーク : 9月22日(土)、10月6日(土)、10月20日(土)午後2時~3時

学芸職員が展示内容を解説します。

無料(ただし別途観覧料が必要)

定員約 20 名(申し込み不要、当日開始 5 分前までに企画展示室入り口に集合)